

2022年6月30日

OWSI ITC / IE 開催報告書

IT/HQEX

下記の要項にて、OWSI ITC / IE を開催しましたのでご報告いたします。

- 日時 : 2022年6月11日(土)～6月19日(日)・25日(土)26日(日)
- 場所 : 高知県幡多郡大月町
ダイビング三浦(高知県幡多郡大月町弘見)
バー浜(高知県幡多郡大月町龍ヶ迫白崎海岸)
- スタッフ : IT [REDACTED] EX [REDACTED]
- 受講者 : [REDACTED] (鹿児島県与論町)
[REDACTED] (沖縄県 [REDACTED] 市)
[REDACTED] (岡山県 [REDACTED] 市)
- 使用教材等 : 改訂 JUDF インストラクターマニュアル(ドラフト版)
テキストブック(オレンジ) ダイビングマニュアル(白本)
各種スライド教材 レッスンナビ(OWSD・ASD) BLS/AED 学科用スライド
DAN 酸素プロバイダー教材 他
- 内容 : 事前に ITC 課題レポート(20 題)を配布・提出してもらい、学科面の基礎知識を独習
第1週末:OWSD 講習にアシスタントとして参加
実際の講習を見学聴講しながらインストラクションについて学ぶ
月～水:ITC トレーニング
スキンドайビングトレーニング スクーバダイビングトレーニング
学科講義 口述レクチャートレーニング スキル指導法トレーニング
木:自学自習日
金:午前:ダイビングサービスのツアー(ガイドダイビング)に参加
実際のブリーフィングやガイディング、グループコントロールについて学ぶ
第2週末:OWSD 講習に参加。インストラクターの監督の元 実際の講習を実施
- 総合判定 : 3名全員 合格

プログラム実施内容：(朝食は摂って集合。昼・夕食は基本的に1時間休憩)

2022年6月11日(土)

時間	内容	場所	内容詳細
0730	集合	ダイビング三浦	ITC 開講宣言 OWSD 講習準備
0800	OWSD 講習	バー浜	OWSD 講習(講習1日目:講習生2名)に参加 口頭レクチャー・実技指導等を見学、聴講 デモンストレーションの実施等
1600	OW 学科講習	OW 講習生宿泊施設	OWSD レッスンナビ学科レクチャーを聴講
1900	ITC 学科講義	ダイビング三浦	JUDF について:沿革・一般社団法人定款の概説 JUDF のランク コース認定基準の概説
2200	1日目終了		翌日までの課題:ASD 学科テスト

2022年6月12日(日)

時間	内容	場所	内容詳細
0700	集合	ダイビング三浦	OWSD 講習準備
0800	OWSD 講習	バー浜	OWSD 講習(講習2日目:講習生2名)に参加 参加 口頭レクチャー・実技指導等を見学、聴講 デモンストレーションの実施等
1600	OW 学科講習	ダイビング三浦	OWSD 学科テスト 採点と講評 ログ付け OWSD 講習生解散
1700	ITC 学科講義		インストラクター総論 インストラクターの責務等
2100	2日目終了		翌日までの課題:「実技項目講習内容解説」の抄読

2022年6月13日(月)

時間	内容	場所	内容詳細
0700	集合	ダイビング三浦	準備
0800	泳力等	バー浜	フィンスイム:400m タイム測定 水泳:400m タイム測定
	スキン実技		スキndaイビング:水平潜水35m以上 スキndaイビング:5m、5m 片足ヒレ(脱装・回収) スキndaイビング:5m 3点セット脱装 / 装着~浮上 スキndaイビング:垂直10m~水平5m 往復~浮上 スキnda立ち泳ぎ:適正ウエイト+5kg 15分

1300	口述トレーニング	バー浜陸上	講習時の現場口述レクチャーのトレーニング ・スキンドайビング器材の説明 ・スクーバダイビング器材の説明 ・スクーバダイビング水中スキル項目の説明 等
1500	スクーバ指導法	バー浜	スキル指導：デモンストレーションと指導 ・レギュレータークリア ・レグリカバリー ・マスククリア ・水中マスク脱着
	スクーバ実技		ナビゲーションを実施したディープダイビング ・ポイントのナビゲーションの説明（口頭）を受けて ～水深 30m の目標ポイントに到達する
1700	学科講習	ダイビング三浦	・DCEIM ダイブテーブルの引き方
1930	学科講習	ダイビング三浦	「実技項目講習内容解説」の読み合わせと 疑問点等についてのディスカッション
2100	3日目終了		

2022年6月14日（火）：荒天のため海洋実技講習は中止し、終日室内研修

時間	内容	場所	内容詳細
0800	口述トレーニング	ダイビング三浦	現場での口述説明項目を例にとり、 プレゼンテーションの組み立てと口述説明の実施 ・講習開始宣言～オリエンテーション ・3点セット・ブーツ・グローブ ・ウェットスーツ・ウエイトベルト ・スキンドайビングにおけるBC ・スクーバダイビングの重器材 ・スクーバ器材のセッティング ・レギュレータークリア・リカバリー ・マスククリア・水中マスク脱着 ・シェアエア呼吸 ・水中スクーバ脱着 ・フィンピボット・トリミング～ホバリング 等
1330	学科講義	ダイビング三浦	ASD レッスンナビの内容について 様々なダイビング知識の確認とレクチャー
1500	BLS/AED 実習		スライド・動画を用いた学科講義 レサシアン・AED デモ機等を用いた実技講習
1900	DAN 酸素講習	ダイビング三浦	テキスト・動画を用いた学科講義 DAN 酸素キット、医療用酸素ボンベ等の実機を用いた実技講習～修了テスト

2200 4日目終了

翌日までの課題：OWSD レッスンナビの練習

2022年6月15日(水)

時間	内容	場所	内容詳細
0700	集合	ダイビング三浦	準備
0800	レスキュー	バー浜	溺者へのアプローチ ・ヘッドアップクロールと防御姿勢 ・しがみつかれたときのエスケープ法 ・溺者の曳航法 ・フィンブッシュ ・クロスチェスト ・タンクバルブトゥ ・アンダーアーム+マウス to マウス ・4m 沈没ダイバーの引き上げ～陸への曳航
	スクーバ遠泳		スクーバフル装備での水面移動 1km遠泳
	スクーバ指導法	バー浜	スキル指導：デモンストレーションと指導 ・シェアエアー ・水中スクーバ脱着 ・中性浮力、フィンピボット～ホバリング
1400	スクーバ実技 学科講習練習	ダイビング三浦	スクーバフル装備立ち泳ぎ：+5kg 5分 OWSD レッスンナビを用いたプレゼンテーション 受講生のプレゼンを評価/修正/再試行 ・オリエンテーション～Sec.2 水中環境 ・Sec.8 スクーバダイバーの選考と浮上 ・Sec.9 スキンダイビングの危険性 ・Sec.10 ダイビング障害の回避 ・Sec.11 海洋 ・Sec.12 トラブルの原因と予防 ・Sec.13 レスキューとバディシステム

1900 5日目終了

2022年6月16日(木)

自学自習日

2022年6月17日(金)

時間	内容	場所	内容詳細
0700	集合	シーエアー柏島	ダイビングツアーに参加 ダイビングサービス業者の接客・接遇

1400 7日目終了

ブリーフィング
ガイディング
グループコントロール
デブリーフィング 等について学ぶ
午後は自学自習
翌日までの課題：本日のレポート提出

時間	内容	場所	内容詳細
2022年6月18日(土):		6月25日(土):	
0730	集合	ダイビング三浦	OWSD 講習準備
0800	OWSD 講習	バー浜	OWSD 講習 (講習 1 日目: 講習生 3 名/6 名) 口頭レクチャー～実技指導を実施
1600	OW 学科講習	OW 講習生宿泊施設	OWSD レッスンナビ学科レクチャーを実施
1930	ITC 学科テスト	ダイビング三浦	ITC 学科テスト テストの採点と解説
2100	学科講義		ダイビング事故事例の解説、ディスカッション
2230	8日目終了		

時間	内容	場所	内容詳細
2022年6月19日(日):		6月26日(日):	
0700	集合	ダイビング三浦	OWSD 講習準備
0800	OWSD 講習	バー浜	OWSD 講習 (講習 2 日目: 講習生 3 名/6 名) 口頭レクチャー～実技指導を実施
1100	スクーバ実技		講習生の昼休みにデモのトレーニング ダイビングスキルデモの動画撮影
1600	OW 学科講習	ダイビング三浦	OWSD 学科テスト 採点と講評 ログ付け OWSD 講習生解散
1700	ITC のまとめ ITC / IE の講評		インストラクター総論のおさらい 全体の講評・結果発表
1800	ITC 終了		ITC 終了宣言・解散

記録・結果等：

【参加条件検査】

- ・新型コロナウイルス抗原検査

参加者には、SARS コロナウイルス抗原キット（イムノエース SARS-CoV-2）を事前送付し、参加前日に検査して陰性結果をメール送付してもらい、参加条件とした。



【水泳実技検定項目】

- ・水泳 400m

50m の距離を実測したブイの間を 4 往復（400m）水泳で泳ぎ、タイムを測定した。

ウエットスーツの場合ウエイトの装着は任意とした。

泳法は半分（200m）以上をクロール指定、他は自由。

- ・結果： ■■■ 6'16" ■■■ 6'23" ■■■ 6'16"



【スキンドайビング実技検定項目】

- ・フィンスイム 400m

50m を実測したブイの間を 4 往復（400m）スキンドайビング器材を着けて泳ぎ、タイムを測定した。

- ・結果： ■■■ 6'70" ■■■ 6'50" ■■■ 5'57"



・スキンドайビング水平潜水 35m

実測した 35m のラインに沿って 35m (以上) のスキンドайビング水平潜水を行った。

・結果：全員合格



・スキンドайビング器材脱装・装着

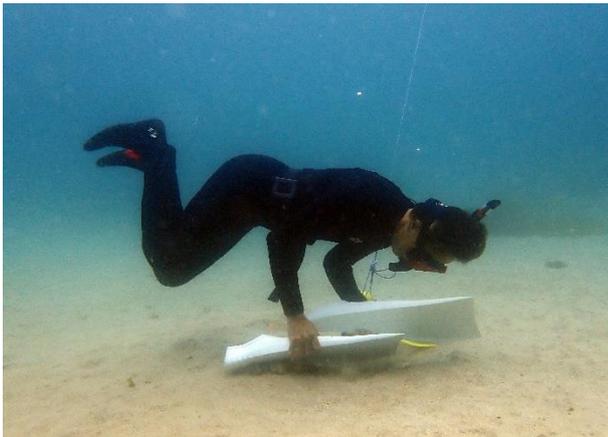
水深 5m において、以下の器材脱装・再装着を行った。

①水底に片方のフィン置いて浮上し、片足フィンで再潜降して水底でフィンを装着して浮上する。

②水底にウエイトを落とし、ノーウエイトで潜降し、ウエイトを装着して浮上する。

③水底に 3 点セットを置いて浮上し、水泳で再潜降して水中で 3 点セットを装着して浮上する。

・結果：全員合格



・スキンドайビング垂直潜水 10m+a

水深 10m に設置した垂直のブイに沿って潜降し、そこから 5m 離れたところに待機するスクーバダイバーまで水平に移動し、再びブイに戻って浮上を行った。

・結果：全員合格



- ・スキンドайビング立ち泳ぎ

適正ウエイトのスキンドайビング装備に+5 kgのウエイトベルトを持って、15 分間の立ち泳ぎを行った。

- ・結果：全員合格

【スクーバダイビング実技検定項目】

- ・スクーバダイビングフル装備遠泳 1 km

スクーバダイビング器材フル装備にて、約 500m の水面移動の往復（遠泳）を行った。



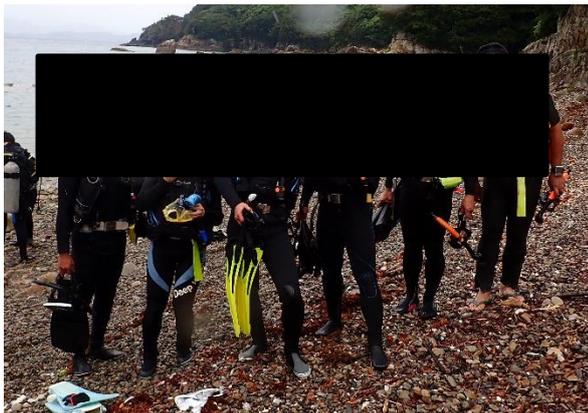
- ・結果：全員合格

- ・スクーバダイビングフル装備立ち泳ぎ

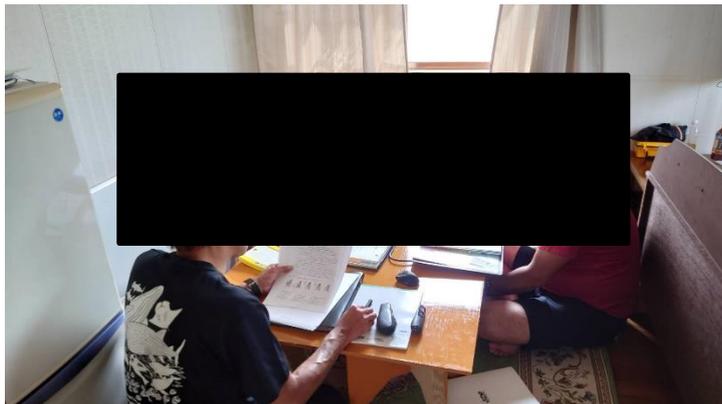
スクーバダイビングのフル装備を装着し+5 kgのウエイトベルトを持って、5 分間の立ち泳ぎを行った。

- ・結果：全員合格

【その他 ITC 研修風景等】



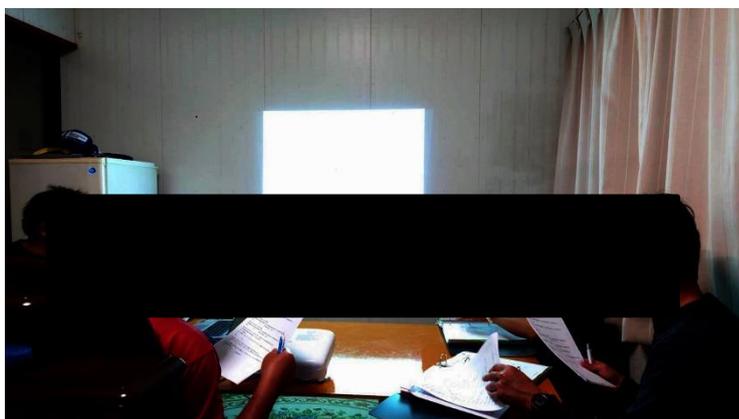
OWSD 講習生と ITC 受講生



ITC 受講生も参加して、OWSD 学科講習



BLD/AED DAN 酸素講習



スライドを用いた学科講義



レッスンナビの講義練習



水中実技講習（水中マスク脱着）

ITC を終えて :

今回の ITC は私にとっても初めてのことが多く、大いに勉強になった ITC でした。

3 名の参加者は、昨年この時期に行う予定だったのがコロナ禍で実施できず今年に伸びてしまった方 (■■■■さん)、昨年事務局にお問い合わせをいただき、お住いの地域の IT/EX をご紹介したもののコロナ関係もあって実施ができていなかった方 (■■■■さん)、ITC を実施するにあたって参加を希望した私の講習生の中堅ダイバーの方 (■■■■さん) でした。私のこれまでの ITC は技量のわかっている知人のダイバーをステップアップさせていく形で時間をかけて行う方式でしたので、今回のように初めて会う方を対象にして、集中した合宿形式で行うのも初めてのことで、ITC の内容や組み立て等に苦勞をしました。

また今回の ITC は、現在ドラフト作成中の新版インストラクターマニュアルを用いてその内容をチェックすることも兼ねていました。インストラクターマニュアルを読み合わせたり、学科講習用スライド資料を用いて進めた学科講義も多く、マニュアルや学科講習用資料の有用性はある程度確認できたかと思っています。

学科講習では、新版マニュアルの「インストラクター総論」を基に話をしましたが、インストラクターのあるべき姿から説き、レクチャープレゼンテーションのポイントとして導入・態度・コミュニケーション、内容の説明～クロージング といった組み立て、スキルのブリーフィングでは講習項目の意味(必要性)の説明、段階的な練習(デモを見せる、陸でやってみさせる、背の立つところでやってみさせる～水中スキルとしてやってみる)、できたことへの評価と修正、などを重点的に説明し、繰り返し実践して練習を行いました。

実技講習では、まずは自分自身が美しいデモンストレーションができることが前提であり、繰り返し練習をしてもらいました。また、目の前の生徒だけでなくグループ全体へ気を配りつつ講習を進める視点などを学んでもらいました。

結果としては、学科テストの点数、実技検定項目、実技実習、学科プレゼンテーション・レクチャーなど、ほとんどの項目において及第点であると判断し、全員を合格としました。(エグザミナーは香川県 榎野光一 REX) 理想を言えばもうワンクール同じ内容の講習を重ねてもう一回り成長や吸収を見たい気もしますが、時間に限りもあり、今後の成長と指導員としての完成は実践に期待したいと考えています。

インストラクターマニュアルについては、一定の用途は認められたと考えています。今後関係各位とブラッシュアップして完成形を目指したいと考えます。

ITC は事務局はじめ多くの方の協力によって開催することができました。深く感謝申し上げます。また、連絡の不行き届き等によって一部多大なご迷惑をおかけいたしました。深くお詫び申し上げます。

以上